

■召天者記念礼拝 報告

制限を設け例年とは異なる形でしたが、今年も召天者記念礼拝を行うことができ、感謝でした。特にこの一年で召された3名の兄弟を覚えて共に天国への思いを新たにし、主の慰めを分かち合いました。また、この日に数ヶ月ぶりに礼拝に出席した方も多数ありました。

・7月5日 礼拝出席者数 報告

第1礼拝 29名
第2礼拝 45名
第3礼拝 24名

皆さまのご協力をいただき、ちょうどよく分散することができました。各回共に密にならず、余裕をもって対応できました。感謝いたします。

・墓地訪問者数 報告

訪問者 7名(担当者を含む)

墓地関係者4名、教会員3名がこの日を覚えて墓地を訪れました。墓地管理料をお持ちくださる方もありました。年に一度の機会にお目にかかれて感謝でした。

■緊急支援 九州南部豪雨災害

九州キリスト災害支援センター、ハンガーゼロ、JEAが中心となり支援活動が始まっています。教会の被害状況も判明してきました。蒲田教会も支援金をお送りしたいと思えます。被災された方々、また支援にあたる方々のためにお祈りください。ご協力をお願い致します。

礼拝堂に設置の支援献金箱で受け付けています。郵便や振込でも受け付けます。

■礼拝説教箇所「レビ記」三つ三つ

レビ記には、幕屋でのささげものについてのみまりなどが記されています。私たち現代のクリスチャンには無関係な事柄と思えるものですが、そこに示されているのは「神の民がいかにして聖なる神に近づくか」という事柄であり、幕屋でのささげものはすべて「イエス様の十字架」を啓示しています。レビ記を知ることによってキリストの十字架の血による贖いについて悟ることができます。

■教会メールアドレス

zion@am.wakwak.com

メールには必ずお名前をご記入ください

No.15 2020・7・12

「主はモーセを呼び、会見の天幕から彼にこう告げられた。」

レビ記 1章1節

レビ記は多くの人々から難しい書と思われています。その理由はレビ人、祭司による宗教儀式の規定が細かく記されているからです。しかし、その背後にあるのは、幕屋を

通して神が民と共に住み、イスラエルは神の民となり、神は民を導くことの約束です。この契約関係は、イスラエルの民が、神礼拝と生活全体において守らなければならないものでした。

レビ記には、神を礼拝するための詳細な規定が定められています。では、主に受け入れられる礼拝の要素とはなんでしょう。

主は私たちをご自身のもとに招きたいと願われ、主の怒りがなだめられる方法を示してくださいました。

一章に記されている「全焼のささげ物」は、自分の家畜の中で最高のものを自分で連れてくる必要があります。そしてその人自身が動物をほふるのです。いけにえはすべて焼き尽くされ「主へのなだめかおり」となります。これは、全部を神にささげるといふ礼拝の本質を意味し、そこで問われるのはささげる者の心と行動でした。そして今、キリストが私たちの身代わり

のいけにえとなり、その「香ばしいかおり」により人間の罪に対する神の怒りは、なだめられたのです。神はいけにえを喜ぶというよりも、その払われた犠牲の大きさ、価値を認めてくださっているのです。

二章の「穀物のささげ物」は、「貢物」を意味する言葉です。全焼のささげ物に添えてささげられたもので、「覚えの分」が「祭壇の上で焼いて煙に」されます。しかし、主はこの覚えの分に過ぎないものをも「なだめのかおり」の火によるささげ物と呼んでくださっています。神の喜ばれる供え物をささげることこそ真の礼拝なのです。そして、火は絶えず、祭壇の上で燃やし続けるようにと命じられているのです。